

〈東文研・ASNET共催セミナー〉

清朝の「京報」と外国人読者

1870年代の世界的大飢饉を中心として

The Peking Gazette and Its Foreign Readers

「京報」とは、中国の明、清時代に存在した法令や奏聞、皇族の動向などをまとめて掲載した小冊子のことである。第二次アヘン戦争以降、イギリス人などの外国人にとって、「京報」は「情報源」であったのみならず、「外交手段」の一つともなっていた。1870年代以後、東アジアで最も影響力のあった新聞の一つ、

The North-China Daily News（上海発行の英字紙）

は、定期的に「京報」の訳文を掲載するようになった。そのため、政治家以外の一般のイギリス人が、中国に関する情報を得るようになり、中英外交に大きな影響を及ぼした。本発表では、1870年代の世界的な飢饉の際に見られた、イギリス人の対中救援活動を例として、当時の中英外交の新しい形の一端を明らかにしたい。



「京報」

◆ 日時： 2014年 7月 3日 (木) 17:00-18:00

◆ 報告者： 趙瑩氏 (東洋文化研究所・訪問研究員)

◆ コメント： 張厚泉氏 (東華大学・教授)

◆ 会場： 東京大学 本郷キャンパス内 東洋文化研究所 1F ロビー

※ 報告は日本語で行われます。

東文研・ASNET共催セミナー

東洋文化研究所とASNETは毎週木曜日の夕方にセミナーを開催しています。どなたでもご参加頂けます。皆様のお越しをお待ちしております。詳しくはこちら: <http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

東大ASNET

検索



東京大学
日本・アジアに関する教育研究ネットワーク
Network for Education and Research on Asia

